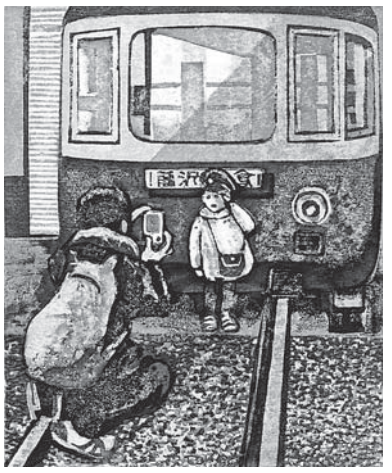
谷戸の風 ㊶

鎌倉の秋

山内静夫

〝色鳥（いろどり）〟という俳句の季語がある。秋渡ってくる小鳥たちの中の美しい色の小鳥を指して言うことばだろうが、特に羽色そのものを言うよりも、色とりどりの美しい小鳥の総称という意味だろうと思う。このところ、起きて窓を明けると、きれいな小鳥のさえずりが数多く飛び交っているのを聞く。聞きわける耳を持っていない素人にとっては、どれだけの種類の小鳥たちが集っているのかわからないが、いかにも秋を感じさせる心地よい響きだ。欲を言えば、背景が美しく晴れ渡った秋空であったら、もっと澄んだ音色に聴けたのにと残念だ。



木版画　藤本宿

そう言えば、今年の秋は、九月から何となく長雨の印象しかない。残暑らしい暑さはなく、長雨の間にゲリラ的な猛暑が十月に入る頃まであり、とにかく季節感など全く感じられない誠に行儀の悪い気候であった。

私は、一年の間で十月が一番好きだ。最近の鎌倉は、春夏秋冬お構いなしに観光客が溢れる街だから、街中の人出はどうしようもないが、ちょっと横道へ外れたりすれば、街音も消えて、しっとりと物静かな町筋もあり、十月の爽やかな空気が流れて、鎌倉の良さを感じることが出来る。鎌倉らしい美しい外塀に囲まれたお屋敷、小路の佇まいは、時代と共に随分少なくはなったが、鎌倉のもつ本来の姿はまだまだ随所に残されている。

鎌倉の良さは何なのか、何処なのか、町の持つ本来の姿を知り、それを大事に守って行くにはどうあるべきか、行政の力など待っていたら大変なことになる。市民の、ここに住む人みんなの大きな宿題ではないだろうか。

寺社や洋館に響く若人の歌声

鎌倉で第1回アカペラ・サミット

鎌倉芸術祭のスタートを切る「第1回カマクラ・アカペラ・サミット」が10月1日、鎌倉文学館テラス＝写真＝と長谷寺観音堂横特設ステージで行われた。

無伴奏の声だけのハーモニー〝アカペラ〟を鎌倉から多くの人に伝えたいと、市内在住の音楽プロデューサー・マキノユキオさんが近隣の大学生らと企画した初めての催しで、9バンドが出場。小雨がぱらつく空模様だったが、歌声が雨雲を吹き飛ばしたかのように雨もやみ、ハーモニーが一帯に響き渡った。

明治学院大や筑波大などの学生ほか、社会人チーム、男性チーム、女性チーム、男女混合チームなどがそれぞれの持ち歌を披露。この日初ステージのチームもあり、真剣な取り組みに会場はしんとして聴き入った。

演奏後、観客の投票が行われ、得票の多かった5チームが午後から長谷寺のステージに。優勝は筑波大学の男3、女2人のチーム「ｐｅｒｈａｐｓ」で、10月10日に鎌倉宮で行われた宇崎竜童さんら出演の「鎌じゃず～鎌倉音のカーニバル」でもバランスのとれたハーモニーを披露した。

地元製品の紹介やロボット対戦

鎌倉モノづくり展2016

鎌倉工業界の振興発展を目指して、市内の事業者が生産している製品・技術を広く知ってもらい、子どもたちにモノづくりの楽しさを味わってもらおうと「鎌倉モノづくり展2016」が10月15・16の両日、鎌倉商工会議所で開かれた。

初日の小学生向けの体験教室「紙で兜を作ろう」には約40組の親子が参加し、鎌倉市台の第一パック大船工場で製造された兜を組み立てた。2日目は9月に作った小型ロボットのデザインコンテストや対戦競技大会が行われ、小学校高学年の児童らが競い合った。

展示では、木工業者の鎌倉彫、金属・機械業者の製品紹介があり＝写真、食品業者のハムやかまぼこなどの試食コーナーも好評だった。

文学つれづれ ㉕

『桃太郎と一寸法師』（1）

赤羽根龍夫

アニメが普及した現代では大分様子が変わってきたが、桃太郎は長い間日本の男の子の理想であった。一ぱい食べれば一ぱい分、二はい食べれば二はい分、ずんずん大きくなって、日本一のキビ団子を持って、犬と猿とキジを従えて鬼ヶ島へ鬼退治に行く話は一点のためらいも淀みもない。日本の子供たちは、桃太郎に自分の将来の成長の姿をだぶらせて、心を躍らせてきた。

しかしなぜ、そんな立派な男の子が川上から桃に入って流れて来たのだろう。子供たちは、桃が「どんぶらこ」と流れてくるところも大好きだが、お婆さんに拾われた後ほどには、流れて来たことに注目しない。そもそもどうやって自分が生まれてきたのか知らない子供たちにとって、川上から桃に入って流れて来たということに、われわれの心を躍らせる何かがあるとしたら、もっとそのことを考えてみる必要はないだろうか。

桃太郎と同じように、少しも大きくならないので爺と婆に疎んじられて、お椀の舟で川を流れて行くのだが、桃太郎と比べると、一寸法師が川を流れて行く姿には、何か孤独な寂しいものが感じられる。また、姫の手に入れ方にしても、姫が寝ている間に姫の口に粟を付けて姫を泥棒に仕立てて、姫が父親の三条の大臣に追放されるという話には、一寸法師の何か暗い情念が感じられる。しかし、とにかく一寸法師も鬼を退治して打ち出の小づちで美少年となり、姫と結婚してめでたしとなっている。

いまや古典となった赤羽末吉の「ももたろう」＝福音館書店、初版1965年

おとぎ話や民話の中に、その民族の夢や憧れ、また反対に、悲しみや苦しみといった人間の暗部が秘められているとしたら、桃太郎や一寸法師とは何だったのであろうか。桃太郎は川上―かつての日本人にとって山の奥深くにある川の水源は聖なる場所であった―から爺と婆の所に流れて来て、一寸法師は爺と婆の所から、川下の京の都という世間の雑踏の中へと流れていった。後に述べるように、日本人の感性にとって、川の流れというものが大きな意味を持っているとしたら、桃太郎や一寸法師が流れて行った川とは、いったい何だったのだろうか。

私の考えを述べる前に、これまでの桃太郎像がどんなものであったかを、滑川道夫の大著『桃太郎像の変容』（東京書籍、1981年）によりながら述べておきたい。

桃太郎や一寸法師の話のルーツは、遠く神話の時代にさかのぼるであろうが、桃太郎が昔話として成立したのは、室町末期から江戸初期にかけてであるというのが定説である。特に桃太郎の鬼ヶ島征伐は、倭寇や八幡船にみられるように、海洋へ発展しようとした当時の日本人の生命力の現れでもあったろう。新渡戸稲造は「鬼ヶ島とは、南洋諸島の総称である」としている（『随想録』1907年）。

（神奈川歯科大名誉教授）

サダコの折り鶴伝える
佐々木祐滋さん

御成小で平和の出前講話

シンガーソングライターの佐々木祐滋さん（46）が10月14日鎌倉市立御成小学校（中澤純二校長）の3・4年生約220人に平和の出前講話を行った＝写真。

佐々木さんは広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルで「折り鶴の少女サダコ」として知られる佐々木禎子さんの甥で、2009年ごろから禎子さんに因んだ広島の原爆の話や、歌で平和を訴える活動をしている。

2歳で被爆した禎子さんが12歳のとき、白血病を発病し、入院してから8カ月で亡くなったこと、病床で生きる希望の願いを込めて1600羽の鶴を折ったこと、その鶴は真珠湾に展示されていることなどを話し、「戦争がなくなるように、いじめや、相手を傷つけるような行為はしないで。思いやりの心を大切にね」と児童たちに呼びかけた。

「なぜ、病気になったの？」「お墓はどこにあるの？」と子どもたちは関心深く問いかけ、佐々木さんの歌にも手拍子で参加していた。

70歳からの人生
豆紙人形作家の生き方語る講演会

指先ほどの大きさの小さな豆紙人形の展示と、その作家・マサコ・ムトーさん（横浜市港北区在住）。70歳からパステル画、88歳から豆紙人形の制作を始め、約3百点を制作し、パリでの個展を成功させ、93歳で亡くなった母親の生き方を伝え、ハープの伴奏で朗読を行った＝写真。

講演したのは、マサコさんの長女で、エッセイストで作家のヒロコ・ムトーさん（横浜市港北区在住）。70歳からパステル画、88歳から豆紙人形の制作を始め、約3百点を制作し、パリでの個展を成功させ、93歳で亡くなった母親の生き方を伝え、ハープの伴奏で朗読を行った＝写真。

鎌倉朝日 発刊協力グループ
朝日新聞サービスアンカー

ASA鎌倉小町販売
大町一―一一四
☎22―3236

ASA鎌倉中央
長谷一―一九
☎22―1004

ASA北鎌倉
山ノ内七四八
☎45―4509

ASA鎌倉深沢
常盤二四七―二
☎31―1444

ASA大船西部
玉縄一―一四―一
☎46―6068

ASA大船南部
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA大船中央
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA腰越
藤沢市鵠沼藤が谷二―一一―二三
☎0466―27―8716

ASA藤沢南部
藤沢市鵠沼藤が谷二―一一―二三
☎0466―27―8716

ASA藤沢東部
藤沢市弥勒寺三―一二―一一
☎0466―22―7409

ASA鵠沼東部
藤沢市鵠沼桜が岡三―一六―一八
☎0466―25―7110

ASA鵠沼西部
藤沢市鵠沼海岸二―一一―一一
☎0466―34―6924

ASA片瀬
藤沢市鵠沼海岸二―一一―二
☎0466―34―6924

ASA辻子
逗子市久木一―一一―一一
☎046―871―2368

ASA東逗子
逗子市沼間一―四―四
☎046―871―6845

ASA葉山
三浦郡葉山町堀内一八〇八
☎046―875―0515

ASA金沢八景
横浜市金沢区六浦一―二一―一三
☎045―782―2859

ASA大船北部
横浜市栄区笠間四―一一―九
☎045―891―0986